

●国の予算編成がされないという異常事態の中、本市では一般会計、1,702億円、国保事業・土地・下水道等の特別会計1,188億、合計2,890億（前年度比2.4%増）の予算を認定しました。

予算が増えているのは今までの基金のとりにくしと起債によるもので、歳入の根幹をなす市税収入は昭和31年度以来38年ぶり対前年比マイナス、法人税等の落ち込みもひどく内容はきわめて厳しいものです。

●予算審査等特別委員会では、なかなか事業の進まないJR駅北口地下駐車場について質問しました。工事期間中よりのパーキングチケットの廃止に伴い、9月の一般質問で指摘をした西武パーキングの一時借り上げを再度要請しました。又、23区の厳しい撤去の影響を受けて増加する市内のホームレス対策についてはかわいそうとか迷惑では解決にならずホームレスになってしまった過程にしっかりと目を向け、全般的な対応を協議してほしいと要望しました。

東京都のリストラによる高尾ユースホステルの廃止問題では、施設の性格を変更しても貴重な観光資源でもある高尾山をひかえる好立地にあるので別の宿泊施設として・・・と熱くうったえたのですが、例によって市側は「新聞報道で知る程度です」という無関係を装う姿勢にはひさびさに激怒しました。建物は都ですが土地は市のもので、本市の国や都との連携の悪さは一流で、そんな事なら新聞記者と議会を開いた方が有意義だと思いました。

●いよいよ小選挙区制導入が決定しました。本市はまちがいなく単独区になるようです。困った事に石渡先生、小林都議双方が立候補を表明し混乱が続きそうです。

10年かかって取り戻した都議会の2議席をこの時期に一つなげうてが、はたして八王子の為かは疑問です。慎重に対応してまいります。



1994年(平成6年)

都が7年度 関係者に戸  
 高尾ユース・ホステル廃止  
 利用者は盛り返したが

都が7年度 関係者に戸  
 高尾ユース・ホステル廃止  
 利用者は盛り返したが

今年で開設27周年を迎える高尾ユース・ホステル(八王子市高尾町)が、都府県議会の決議を経て、11月30日をもって廃止されることになった。この施設は、1967年に開設された。当初は、高尾山登山客の宿泊施設として、50名程度の利用者が集っていた。その後、利用者が急増し、1970年代後半には、100名程度の利用者が集っていた。この施設は、1967年に開設された。当初は、高尾山登山客の宿泊施設として、50名程度の利用者が集っていた。その後、利用者が急増し、1970年代後半には、100名程度の利用者が集っていた。この施設は、1967年に開設された。当初は、高尾山登山客の宿泊施設として、50名程度の利用者が集っていた。その後、利用者が急増し、1970年代後半には、100名程度の利用者が集っていた。

転機にさしかかった高尾ユース・ホステル

しかし、都府県議会の決議を経て、11月30日をもって廃止されることになった。この施設は、1967年に開設された。当初は、高尾山登山客の宿泊施設として、50名程度の利用者が集っていた。その後、利用者が急増し、1970年代後半には、100名程度の利用者が集っていた。この施設は、1967年に開設された。当初は、高尾山登山客の宿泊施設として、50名程度の利用者が集っていた。その後、利用者が急増し、1970年代後半には、100名程度の利用者が集っていた。